

受験番号

[]

氏名 〃

〃

二〇二五年度

女子学院中学校入学試験問題（国語）

一 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。※本文中の「」内の注は出題者による。

野生のオオカミと出会ったことがある。

①オオカミについては、物語上の架空の生き物という潜在意識が私にはある。

初めて実在の気配を感じたのは、アラスカに移り住み、何年かしてから秋だった。山の中でかすかな遠吠えを聞いたのだ。子どもの頃、デイズニーやシートの世界で想像した生き物が、姿こそ見せないがどこかにいた。

それから数年して、オオカミは私の前に姿を現わした。巣穴が近かったのだ。

黒と灰色の二頭のオオカミは、稜線上に現われ、私を見つめていた。ザックをおろし、写真を撮ろうと思った時、オオカミはすでに消えていた。その翌日、巣穴を見つけた。昨日まで、ここで子どもを育てていたに違いない。巣穴は

②もぬけの（ ）だった。まわりに残されたオオカミの足跡に、私の山靴の跡が交錯した。彼らの世界に、私は③土足で踏みこんでいたのだ。初めてのオオカミとの出会いには、④苦い思い出だけが残った。

そして昨年の夏、不思議な体験をした。その夜、私は白夜のマツキンレー山を撮影していた。この時期、極北の太陽は沈まない。マツキンレー山の残照は、もうそのまま朝焼けだった。撮影が終わり、コーヒを沸かしていた私は、何かの視線を感じた。気がつくと、十メートルも離れていない場所で、オオカミが私を見つめている。信じられない気持ちのまま、私はカメラに一〇〇ミリのレンズをつけ、シャッターを切った。背後には、朝焼けのマツキンレー山がそびえていた。

アラスカではこのころ、オオカミをめぐる大きな論争が巻き起こっていた。ムース※（ラジカのこと）のポピュレーション※（個体群のこと）が減少している事態に対し、アラスカ野生生物局がオオカミを殺し始めたのだ。十分な調査がされないまま、とりあえずオオカミを減らすことによって、⑤ムースの状況をみ

ようということだ。アメリカの他の州でもそうだった。悪者はいつもオオカミなのである。繰り返されてきたオオカミの歴史が、最後に残された土地、アラスカでまた始まった。

オオカミのもつこの悪魔のイメージは、いかにしてつくられたのだろうか。

それは、人間の経済的利益と対立してきた歴史からくるのだろう。アメリカの開拓史上、かつて合衆国全域を覆っていたバイソンが乱獲により消えてゆくにつれ、人間とオオカミの対立が深まっていった。食物のなくなったオオカミが、家畜を襲い始めたからだ。人間に害を与えるさまざまな現象のシンボルとして扱われてきたオオカミの伝説は復活し、人間は狂ったようにこの動物を殺し続けた。⑥オオカミがこの土地から消え去るのに、多くの時間は要らなかった。

「三匹のこぶた」、「赤ずきんちゃん」の中のつくられたオオカミのイメージは、現在もお生き続けている。

アラスカの人々にとって、狩猟は生活の一部として切り離せない。ムースはその中でも一番欲しい肉であった。州の行政機関であるアラスカ野生生物局は、その予算の大部分を狩猟のライセンス料※（許可証の料金）でなりたてさせている。当然ハンターからの圧力が強く、とにかくムースの数を増やさなければならなかったのだろう。その後の調査が進む中で、⑦皮肉なことに、ムースのポピュレーションを左右しているのは、オオカミではなくてグリズリー※（ヒグマの一種）であることが判ってきた。すでに多くのオオカミが殺されていた。

私たちの生活の中で、一つの大切なことは、人間をとりまく生物の多様性だろう。一生の中で、オオカミに出会う人はまずいないし、それはどうでもいいことだ。けれどもどこかにそんな世界があるということ、それを意識できることは大切なことだ。それはもちろんオオカミに限ったことではない。私たちの日々の生活と直接関わるものがない、たくさん世界、現象、それが存在すると意識できることは、とても大切なことだ。

多様性、それは決して生物の世界にとどまらず、人間社会の中における文化の多様性にもあてはめることができる。それは私たちの考え方を刺激し、思考に豊かさ（せんだく）と選択の機会を与えてくれる。時には私たちの中に存在する、いろいろな問題を解決するための方向性を与えてくれるかもしれない。健康を維持（いじ）してゆくためにいろいろな食べ物が必要なように、⑧同じことが精神の健康にも必要なだろう。

一部の人間、民族、あるいは一つの種の価値観をもって、異なるものの存在を脅（おびや）かしてゆく方向は、⑨いつしかそれ自身が袋小路（ふくどうち）へと追いつめられてゆくに違いない。

生物の多様性の存在は、まず私たち自身をほっとさせる。そして、私たちが誰（だれ）なのかを教え続けてくれる。違うものの存在を認めるということ。あの夜、⑩私を見つめていたオオカミのまなざし（まなざし）がそれを語りかけ、教えてくれたような気がする。

（星野道夫『星野道夫著作集5』より「オオカミのこと」）

問一 ― ①「オオカミについては、物語上の架空（かくう）の生き物という潜在意識（せんい）が私

にはある」とありますが、筆者はオオカミにどのような印象をもっているか、最も適切なものを次から選びなさい。

ア 物語によく登場するので、一度も出会ったことはないけれど、慣れ親しんでよく知っている生き物

イ 昔は身近な存在であったが、とつくに絶滅（ぜつめつ）しており、今では物語の中だけでは出会うことができない生き物

ウ 存在すると知ってはいるが、物語の中にしかないように感じられ、実際に自分が出会えるとは思っていない生き物

エ 物語の中では悪者としてしか姿を見せないが、本当は違（ちが）うと知っているので、出会えるのを楽しみにしている生き物

問二 ― ②「もぬけの（ ）」の空欄（らん）にあてはまる言葉を、ひらがな二字で答えなさい。

問三 ― ③「土足で踏みこんでいたのだ」とありますが、「土足で踏みこむ」とはどういう意味の慣用句ですか、適切なものを次から選びなさい。

ア 後先を気にせずに勢いよく行動し、相手を傷つけてしまうこと

イ 相手のことを考えずに入りこみ、身勝手なふるまいをすること

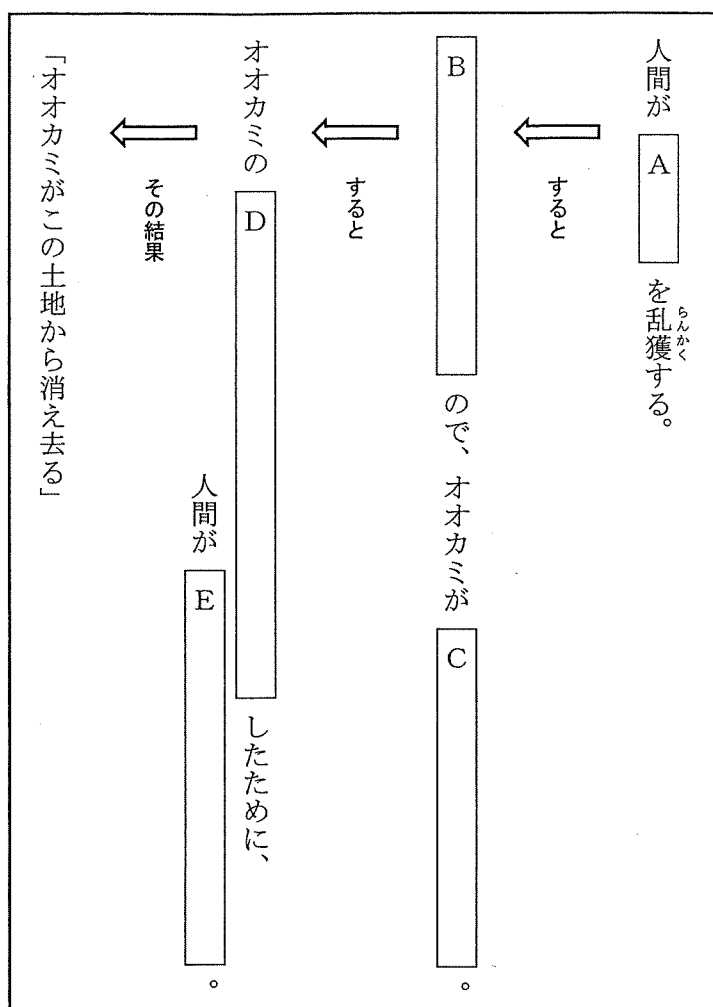
ウ なにもかも自分のものにしようと、相手から強引（うば）に奪（うば）い取ること

エ 相手が大事にしていることを、わかっていながら踏みじること

問四 ― ④「苦い思い出だけが残った」とありますが、筆者はオオカミに対してどのような思いをいだいていると言えますか、ていねいに説明しなさい。

問五 —⑤「ムースの状況^{じょうきょう}をみよう」とありますが、どういふことですか、解答欄に合わせて答えなさい。

問六 —⑥「オオカミがこの土地から消え去る」とありますが、そこにいたる過程を次のようにまとめました。文中の言葉を用いながら、空欄A～Eに適切に語句を補いなさい。



問七 —⑦「皮肉なことに」とありますが、「皮肉」には、予想に反してよくない結果になるという意味があります。筆者はどういふことを「皮肉」と感じていふのか、わかりやすく説明しなさい。

問八 —⑧「同じことが精神の健康にも必要なだろう」とありますが、どういふことですか。次の空欄に当てはまる語句を、本文から六字で抜き出さなさい。

精神の健康を維持^{いじ}してゆくために（ ）が必要だ。

問九 —⑨「いつしかそれ自身が袋小路^{ふくろこうじ}へと追いつめられてゆく」とありますが、どういふことですか、最も適切なものを次から選びなさい。

ア 異なる価値観を否定することで、問題を解決することが難しくなっていく、かえって自分たちの存在を危うくするということ。

イ 異質なものを排除^{はいじょ}し多様性が失われることで、ますます一部の人間や集団の支配が強まってしまうということ。

ウ 異なる選択^{せんたく}肢を視野に入れず、自分たちの価値観だけが正しいと思うことで、むしろ社会全体が混乱してしまうということ。

エ 異質な存在をいらないものとして扱^{あつか}うことで、いつの間にか本当にその存在が社会の中から消滅^{しょうめつ}してしまうということ。

問十 —⑩「私を見つめていたオオカミのまなざし」を通して筆者が感じたこととは何ですか、最も適切なものを次から選びなさい。

ア 自らの利益だけを考えて他の生き物の世界を壊^{こわ}しているのは人間だと自覚し、多様な生き物が暮らすこの世界を守っていくことが大切だ。

イ 人間が知ることのできる世界はごく一部であり、直接関わりを持たなくとも、多様な生き物たちの生活が存在すると意識することが大切だ。

ウ 日常生活の中では意識しないが、人間は生物の多様な関わりの中にあり、違う生き物の視点を通して人間とは何かを考え続けることが大切だ。

エ 人間と他の生き物は本来対立^{たいりつ}する関係にあるものではなく、かけがえないものとしてお互いの存在を認め合い、共生していくことが大切だ。

二 一次の文章はカフェを営む緋桜と、そこを訪れる人々との交流を描いた『桜の木が見守るキャフェ』（標野風）という小説の一節です。文章を読んで後の問いに答えなさい。

麦はいまが芽吹きのとくを迎える。「麦の季節は他の植物と逆だ」と以前、都子が話していた。大地が凍るなか、人知れず新芽を伸ばすのだ。けれどもこの時期、まるで動きが見えないように見える他の植物も、次の季節のための準備をしている。

もちろん葉を落としたわたくしも同じだ。この季節は太陽から栄養を得ることは難しい。夏に溜めた養分が役立つ。そのための蓄えだったのだから。

柚子の形を模した黄色い饅頭は、①菓子だといわれなければ勘違いしてしまふいそうなほどだ。薦めると、可奈は一口齧り、

「見た目だけじゃなく、ちゃんと柚子の香りがするんですね。和菓子って小さな芸術ですね」

と感心する。今朝、自分で買いに行ってきたのだと伝えると②驚かれたが、「季節ごとのお菓子を探るのが楽しみなんです。労力よりも、嬉しさが上回ってしまつて、なかなか人任せにできないんです」

と緋桜の本心が口を突く。

「わかります。私もそうですから」

可奈が頷き、

「デザインだけして、業者に発注すればもっと効率的に作れるってわかってるんですけど。どうしても最初から最後まで全部自分が関わりたいんです」

ネットショップを開設し、受注してほしいという依頼も多いそうだ。けれども可奈は、対面での販売に拘り、年に数度開催する展示会でのみ受注販売している。

「もちろん、ネットなら、遠方の人や展示会に足を運べない方にも届けることができますし。利点のほうが多いのはわかっています」

でも、可奈は効率よりも大切にしたいものがあるようだ。同じデザインのバッグでも使う人の癖やライフスタイルを聞いた上で、持ち手の長さや太さ、ポケットの位置などを微調整するという。刺繍の図案も、場合によってはイチから描きなおすこともあるという。そういう細やかな対応は、対面でないとなかなか、という彼女の目は、熟練の職人のような、と緋桜は感じた。

「*オーダーメイドなんですね」

驚くと、

「そこまでのことじゃないです。デザインは何パターンかしかなりですし、生地も決まっているので、いちおう、*セミオーダーって位置づけではあります。展示会では、事前に用意した作品も販売しますし。でも自分の中では、そうですね」

いったん言葉を切ってから、

「その人だけの作品、と思つて作つてはいます」

と、③静かではあるけれど、はつきりといひ切つた。

「あ、でも私の……」

緋桜が愛用している可奈の作品は、ショルダーのついたミニポーチだが、可奈から直接購入したものではない。都子からプレゼントされたものだ。④言い淀む緋桜の気持ち察したのか、可奈が微笑む。

「プレゼントされたバッグですよ。それは大歓迎なんです」

「どんな人が使うかわからなくても？」

確かめるように尋ねる。

「贈り物として選ばれた方は、自分が使うもの以上にあれこれ悩まされるんです。相手のことを想像し、どんな場面でどんな風に使うか。どんなものが喜ばれるかって。それは私が面と向かつて出会うのと同じ。相手のことを理解した上で選んでくださっているんです」

可奈のきつぱりとしたもののいいを耳にしながら、緋桜は都子がポーチを渡し
てくれたときのことを思い出す。花活けを終えたあと、帰りがけに手渡された。

誕生日でも記念日でもないごく普通の日に、どうして？　と思っただけれど、

「このポーチを見ていたら、緋桜さんの顔が浮かんで来てね。使い勝手がよさそ
うで、それがなんだかこのお屋敷の居心地のよさにも似てるように思えたの」

と差し出されたのだった。プレゼントは品物そのものの奥に、贈り主の想いが
詰まっている。⑤選んで贈る、その行為が贈り物なのだ。

「緋桜さんのおもてなしもきつとそうですね」

突然、自分に振られ、緋桜ははつとする。

「お客さまのことを考えて、お茶もお菓子も用意されているでしょ。今日は寒い
からお湯の温度は少し高くしよう、とか、お菓子を食べやすいように、器は小さ
いほうがいいかな、とか」

果たしてそこまで考えて接客しているだろうか、と緋桜は不安そうだけれど、
大丈夫、ちゃんと出来ていますよ。⑥わたくしは見ていますから。

*オーダーメイド…客の注文に合わせて作ること

*セミオーダー…部分的にオーダーメイドであること

問一 ― ①の文に、それぞれ五字以内で語句を補って、わかりやすい表現にしな
さい。

菓子だといわれなければ (1) と勘違いしてしまいそうなほど

(2) だ。

問二 ― ②「驚かれた」とありますが、可奈が驚いたのは緋桜の言葉のどこに
対してですか、最も適切なものを次から選びなさい。

ア 今朝　イ 自分で　ウ 買いに　エ 行ってきた

問三 ― ③「静かではあるけれど、はつきりといい切った」とありますが、この
ような可奈の態度から伝わってくるものとして、最も適切なものを次から
選びなさい。

ア 自分にしか作れない作品へのこだわり

イ 誰にも負ける気はないというプライドの高さ

ウ 自分の仕事に対するゆずれない信念や誇り

エ 相手に理解してほしいという切実な願い

問四 ― ④「言い淀む緋桜の気持ち」について、

(1) 「言い淀む」とはどういう意味ですか、ふさわしいものを次から選びな
さい。

ア 言葉を言いかけてためらう。

イ 言葉を口にして苦笑いする。

ウ 言葉を思いつかないでいる。

エ 言葉を静かに言い続ける。

(2) 可奈に対して言い淀んでいる緋桜の気持ちを、ていねいに説明しなさい。

問五 太線部AとC「れる」の説明として、最も適切なものを次から選びなさい。

ア ABCの「れる」の意味は、すべて同じである。

イ BCの「れる」は同じ意味で、Aだけが違う。

ウ ACの「れる」は同じ意味で、Bだけが違う。

エ ABの「れる」は同じ意味で、Cだけが違う。

オ ABCの「れる」の意味は、それぞれ異なる。

問六 ⑤「選んで贈る、その行為が贈り物なのだ」の説明として、最も適切なものを次から選びなさい。

ア あえて記念日という特別な日でないときに贈り物をする^{じゅんすい}ことで、純粋に相手を理解し、喜ばせたいという気持ちで選んだことが伝わり、その思いがも^{うれ}らった側を嬉しくさせる。

イ 贈り物を選ぶときは、自分が使うもの以上に、相手が使う場面をあれこれ想像するので、相手の好み^おにふさわしいものを選ぶことができ、も^{うれ}らった側を嬉しくさせる。

ウ 品物を選んでいて自然と相手の顔が浮^うかんできた贈り物には、相手と品物に似ているところがあるので、何にも代えがたい貴重なものとして、も^{うれ}らった側を嬉しくさせる。

エ 贈り物を選ぶ^{なや}ということは、喜んでほしいと思って相手のことを想像し、悩みながら^{なや}するもので、自分のためにしてくれたということがも^{うれ}らった側を嬉しくさせる。

問七 ⑥「わたくし」とはなにものか、十字以上十五字以内で説明しなさい。

二 次のカタカナを漢字に直しなさい。

- 1 長年続いた店のカンバンを守る。
- 2 連絡があるまでタイキする。
- 3 事態のシュウシュウがつかない。
- 4 史上初のカイキヨを成しとげた。
- 5 読書は人の心をタガヤすものだ。

解答用紙（国語） 受験番号 [] 氏名 []

句読点は字数に入れること。

[] 一

問一	問四		問五	問六			問七	問八
			ムースの	E	D	A		
問二								
						B		
問三								
								問九
								問十

[] [] 二

問一	問二	問四		問五	問七
1		2			
	問三			問六	
	問四				
1					
と					
2					
					10
					15

[] 三

1
2
3
4
5